

【研究ノート】

高等学校用検定教科書「保健体育」は、福祉分野をどう取り扱っているか

菅井 直也

1. はじめに

社会福祉学に対応する高等学校の教科は、おおまかに言えば「公民」「家庭」これに加えて「保健体育」ということになる。また、今日の国民生活に喫緊の課題の大半は、社会福祉分野を構成する内容である。これらの内容を、生徒はどのように学ぶのであろうか。

「福祉教育」は、学校教育、社会教育で行われるが、学校では、教科外活動や総合的学習の時間で取り扱われる場合と高校の教科「福祉」を別にすれば、内容上、小学校の「生活」「社会」「家庭」、高校では「公民」「家庭」「保健体育」に含まれ、扱われることが想定される。

今回は、高校の「保健体育」を取り上げて、若干の考察を加えることにする。

教科「保健体育」は、「心と体を一体としてとらえ、健康・安全や運動についての理解と運動の合理的、計画的な実践を通して、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てるとともに健康の保持増進のための実践力の育成と体力の向上を図り、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を育てる」ことを目標とする教科である。(高等学校学習指導要領第6節第1款)この教科には「体育」と「保健」の2科目が設定されていて、7～8単位を必修とすべく指定され、「保健」は入学年次及びその次の年次にわたり履修させるよう指定されている。

「保健」にあっては、「個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるようにし、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力を育てる」ことを目標とし(第6節第2款第2)、その内容において、「精神の健康」のほか、「生涯を通じる健康」や「社会生活と健康」が含まれることに加えて、内容の取扱いに関しても、飲酒、薬物濫用などの嗜癖性障害や大脳機能、神経系及び内分泌系機能との関連づけが学習指導要領に規定されている。さらに、「生涯の各段階における健康」については、「思春期と健康、結婚生活と健康及び加齢と健康を取り扱うものとする」と規定されていて、福祉分野との密接な関係が示唆される教科となっている。

本稿は、この点に着目して、現在刊行されている検定済教科書におけるこれら諸点に関連する記述内容を摘出し、福祉の視点からの考察を加える試みであ

る。

前提となる資料は、2014年中(平成26年度内)に入手しうる検定済教科書として以下の3点である。

(1)『現代高等保健体育』平成26年4月1日大修館書店刊 検定番号50大修館保体301(以下【現代】と略記する)

(2)『最新高等保健体育』平成26年4月1日大修館書店刊 検定番号50大修館保体302(以下【最新】と略記する)

(3)『高等学校保健体育』平成26年2月10日第一学習社刊 検定番号183第一保体303(以下【第一】と略記する)

2. 各書の構成の概要

各書とも、保健編と体育編の二部構成になっているが、今回は内容上、原則として保健編を検討の対象とする。検定教科書の常として、学習指導要領に従って内容が配列されている。各書の目次によりこれを確認する。

なお、【現代】と【最新】では、執筆者が重複しており、そのためか共通する記述が存在している。

【現代】

【1単元現代社会と健康】

1 私たちの健康のすがた

わが国における健康水準の向上

わが国における健康問題の変化

2 健康のとらえ方

健康についての多様な考え方

健康の成り立ちとその要因

3 健康と意志決定・行動選択

意志決定・行動選択とそれに影響を与える要因

健康的な意志決定・行動選択を実現する工夫

4 健康に関する環境づくり

健康づくりを支える環境

ヘルスプロモーションの考え方にもとづく環境づくり

歴史からみたさまざまな健康のとらえ方

5 生活習慣病とその予防

生活習慣病とは 生活習慣病の予防

6 食事と健康

健康的な食生活の重要性と意義

健康的な食生活習慣の形成

- 7 運動と健康
健康からみた運動の意義
健康づくりのための運動習慣の形成
- 8 休養・睡眠と健康
健康からみた休養・睡眠の意義
健康からみたよりよい休養・睡眠のとり方
- 9 喫煙と健康
喫煙の健康影響 喫煙開始の要因と依存性
喫煙への対策
- 10 飲酒と健康
飲酒の健康影響 飲酒開始の要因と社会問題
飲酒への対策
- 11 薬物乱用と健康
薬物乱用の健康影響
薬物乱用開始の要因と社会問題
薬物乱用の防止と対策
- 健康にかかわる行動を考えてみよう
- 12 現代の感染症
感染症とは 新たに注目される感染症
再び問題となっている感染症
- 13 感染症の予防
感染症予防の原則 現代の感染症対策
- 14 性感染症・エイズとその予防
性感染症・エイズ 性感染症・エイズの予防
- 15 欲求と適応機制
欲求と脳の働き さまざまな欲求
欲求不満と適応機制
- 16 心身の相関とストレス
心身相関のしくみとストレス
ストレスの影響と心の健康
- 17 ストレスへの対処
原因への対処 とらえ方を変えることによる対処
気分転換やリラクセーションなどによる対処
信頼できる人や専門家への相談
- ストレスに対処しよう
- 18 心の健康と自己実現
自己実現と心の健康との関係
自己実現の道すじと達成
- 19 交通事故の現状と要因
交通事故の現状 交通事故の要因
- 20 交通社会における運転者の資質と責任
安全な運転のための資質
交通事故の責任と補償
- 21 安全な交通社会づくり
法的な整備と施設・設備の充実
車の安全性の向上
- 防災・防犯をめざした社会づくり
- 22 応急手当の意義とその基本
応急手当の意義 応急手当の手順
- 23 心肺蘇生法
心肺蘇生法の意義と原理 心肺蘇生法の手順
- 24 日常的な応急手当
けがの応急手当 熱中症の応急手当
心肺蘇生法を実習しよう
- [2 単元 生涯を通じる健康]**
- 1 思春期と健康
思春期の体と健康 思春期の心と健康
- 2 性意識と性行動の選択
性意識の変化と異性の尊重
性に関する情報と性行動
- 3 結婚生活と健康
心身の発達と結婚生活
結婚生活と家族の健康
- 4 妊娠・出産と健康
受精・妊娠・出産 妊娠・出産期の健康のために
- 5 家族計画と人工妊娠中絶
家族計画の意義と避妊法 人工妊娠中絶
- 6 加齢と健康
加齢にともなう心身の変化
中高年期を健やかに過ごすために
- 7 高齢者のための社会的取り組み
高齢者の健康課題とその支援
すべての人が健康で安全に暮らすための取り組み
- 生涯にわたる健康づくり
- 8 保健制度とその活用
保健行政の役割と健康づくり
保健サービスの活用
- 9 医療制度とその活用
医療制度と医療保険のしくみ
医療機関と医療サービスの活用
- 10 医薬品と健康
医薬品の種類と使い方
医薬品の安全性のための対策
- 11 さまざまな保健活動や対策
健康づくりのための活動
民間機関の保健活動 国際機関の保健活動
医師や医療機関について考えてみよう
- [3 単元 社会生活と健康]**
- 1 大気汚染と健康
大気汚染の原因と健康影響
大気にかかわる地球規模の問題
- 2 水質汚濁・土壌汚染と健康
水質汚濁とその健康影響
土壌汚染とその健康影響
大気汚染, 水質汚濁, 土壌汚染のかかわり
- 3 健康被害の防止と環境対策
環境汚染の防止とその対策
産業廃棄物の処理と健康
過去の公害から学ぶ環境問題
- 4 環境衛生活動のしくみと働き
ごみの処理 上下水道の整備とし尿の処理
- 5 食品衛生活動のしくみと働き

- 食品の安全性
- 行政や製造・加工者による衛生管理
- 6 食品と環境の保健と私たち
 - 食品の安全と私たちの役割
 - 環境の保健と私たちの役割
- 7 働くことと健康
 - 働くことと健康のかかわり
 - 働き方と健康問題の変化
- 8 労働災害と健康
 - 労働災害とその防止
 - 安全管理と健康管理のしくみ
- 9 健康的な職業生活
 - 職場における取り組み
 - 日常生活における取り組み
- 保健編・用語解説・・・
- 【最新】**
- [1 単元現代社会と健康]**
- 1 健康の考え方と成り立ち
 - 健康については、さまざまな考え方がある
 - 健康はさまざまな要因から成り立っている
- 2 私たちの健康のすがた
 - わが国の健康水準は向上を続けてきた
 - 健康問題は時代とともに変化する
- 3 健康に関する意志決定・行動選択と環境づくり
 - 適切な意志決定・行動選択が重要である
 - 適切な意志決定・行動選択をするために健康にかかわる環境づくりが重要である
- [特設] 望ましくない習慣をやめる作戦を立ててみよう
- 4 生活習慣病とその予防
 - 生活習慣と関連の深い病気を生活習慣病という
 - 生活習慣病を予防しよう
- 5 食事と健康
 - 食事は健康の基礎である
 - 健康的な食事をとろう
- [特設] 食生活の改善に役立つために自分の体型を知ろう
- 6 運動・休養と健康
 - 適度な運動が健康をつくる
 - 休養が疲労を回復し、活力をよみがえらせる
- 7 喫煙と健康
 - 喫煙は、健康に大きな影響をもたらす
 - 喫煙を始めるとなかなかやめられなくなる
 - たばこ対策は全世界で進められている
- [特設] たばこの広告について考えてみよう
- 8 飲酒と健康
 - アルコールは、脳や体に影響を及ぼす
 - 長期間の過度の飲酒は、多くの問題を引き起こす
 - さまざまな飲酒対策がおこなわれている
- [特設] イッキ飲みを防ごう
- 9 薬物乱用と健康

- 「1 回だけ」でも薬物は人生を台なしにする
- 自分の周囲や社会にも薬物は悪影響をもたらす
- 薬物には多面的な対策が必要である
- [特設] 薬物や不確かなものに手を出さないために
- 10 感染症とその予防
 - 病原体が原因の病気を感染症という
 - 問題となる感染症は変化してきている
 - 感染症の予防は、社会と個人で取り組む
- [特設] 人類と感染症の終わらなき戦い—新型インフルエンザに備えよう—
- 11 感染症・エイズとその予防
 - 性感染症・エイズが若者の間で問題となっている
 - 性感染症・エイズは予防できる
- 12 欲求と適応機制
 - 欲求は成長とともに多様化する
 - 欲求不満や葛藤をやわらげる心の働きがある
- 13 心身の相関とストレス
 - 心と体は、一体となって働いている
 - ストレスは、心と体に影響を及ぼす
- 14 心の健康のために
 - ストレスには、さまざまな対処方法がある
 - 自己実現は、心の健康につながる
- [特設] コストレスに対処しよう
- 15 交通事故の現状と要因
 - 若者では自動車と二輪車の事故が多い
 - 3つの要因がかかわって交通事故が起こる
- 16 交通事故を防ぐために
 - 運転者には、資質と責任が必要である
 - 安全な交通社会づくりが進められている
- [特設] 安全な生活を送るために私たちがすべきことできることを考えてみよう
- 17 応急手当の意義とその基本
 - 応急手当は命を救い、痛みをやわらげる
 - 応急手当の最初のポイントは確認と観察である
- 18 日常的な応急手当
 - けがにおうじた応急手当がある
 - 熱中症には適切な手当が大切である
- 19 心肺蘇生法の原理とおこない方
 - 心肺蘇生法は原理にもとづいている
 - 心肺蘇生法には適切な手順がある
- [特設] 心肺蘇生法を実習しよう
- [2 単元生涯を通じる健康]**
- 1 思春期と健康
 - 思春期には、生殖器が発達する
 - 思う春期には不安や悩みが多い
- 2 性への関心・欲求と性行動
 - 性意識には男女で差がある
 - 不正確な情報にまどわされない
- 3 妊娠・出産と健康
 - 母体の健康を維持しよう
 - 母子保健サービスを活用しよう

4 避妊法と人工妊娠中絶

安全で確実な避妊法を選ぶ必要がある
人工妊娠中絶は、女性にとって大きな負担となる

[特設] 避妊法について考えてみよう

5 結婚生活と健康

心身の発達が結婚生活の基盤となる
コミュニケーションが結婚生活を支える

6 中高年期と健康

中高年期を健やかに過ごすために
中高年期の健康を支える取り組みが進んでいる

7 医薬品とその活用

正しい使い方が医薬品の効果を高める
医薬品の安全性を守る取り組みがある

8 医療サービスとその活用

だれが必要なものを受けられる
医療機関にはさまざまな役割がある
医療サービスを上手に活用しよう

[特設] 病院の選び方について考えてみよう

9 保健サービスとその活用

保健行政は健康づくりを支援する
私たちはいろいろな保健サービスを活用できる

10 さまざまな保健活動や対策

多くの活動が、私たちの健康を支えている
ヘルスプロモーションにもとづく活動と私たち

[3 単元社会生活と健康]

1 大気汚染と健康

大気を汚染する物質が放出されている
大気汚染は健康にさまざまな影響を及ぼす

2 水質汚濁・土壌汚染汚染と健康

水質汚濁は健康に影響を及ぼすことがある
土壌汚染は健康にさまざまな影響を及ぼす

3 環境汚染を防ぐ取り組み

環境汚染の状況は変化している
環境汚染を防ぐ、さまざまな取り組みがある

[特設] 国境をこえてやってくる環境問題について考えてみよう

4 ごみの処理と上下水道の整備

ごみを適切に処理するために
安全で質のよい水を確保するために

5 食品の安全を守る活動

食品の安全は、私たちの健康を左右する
行政、生産・製造者がそれぞれの役割を果たす
私たちも食品の安全を守る役割を担っている

[特設] 食品やサプリメントについての見方をチェックしてみよう

6 働くことと健康

働き方とともに、健康問題も変わってきた
労働災害を防ぐために

7 働く人の健康づくり

働く人の健康を保持増進するために
余暇の有効活用は人生の質を高める

保健編・用語解説

【第一】

第1章現代社会と健康

第1節健康の考え方

我が国の健康水準と病気の傾向
健康の考え方と私たちの課題
健康に関する環境づくり

第2節健康の増進と病気の予防

生活習慣病の予防
食事と健康 運動と健康
休養と睡眠 喫煙と健康
飲酒と健康 薬物乱用とその予防
感染症の予防 性感染症とその予防
がんの予防

第3節精神の健康

脳と神経の働き 欲求不満と適応機制
心身相関とストレス ストレスへの対処
目己実現

第4節交通安全

交通と安全な行動 交通事故と安全の確保
安全な社会づくりをめざして

第5節応急手当

応急手当の理解 心肺蘇生法の実践について
日常的な応急手当

第2章生涯を通じる健康

第1節生涯の各段階における健康

人生の各段階の健康 思春期の心の成長
思春期のからだの成長 結婚生活と健康
新しい生命の誕生 幸せで健康な家庭づくり
一生を通じての健康

第2節保健・医療の制度と機関

わが国の保健・医療制度
保健・医療機関の活用
医薬品と健康 さまざまな保健活動や対策

第3章社会生活と健康

第1節環境と健康

環境と健康 大気と健康 水と健康
土と健康 産業廃棄物と汚染物質
地球環境と健康

第2節環境と食品の健康

環境衛生活動 食品衛生活動
健康のための環境と食品の保健

第3節労働と健康

労働と健康生活 労働による職業病
労働による傷害 職場の健康・安全づくり

用語解説—保健編

3. 記述の抽出と考察

3-1 障害者スポーツへの言及

健康の定義を示す部分で、障害者スポーツへの言及をしている。が、記述の趣旨とスポーツの特質上、身体障害者をイメージさせるにとどまっていることに注意が必要である。

「コラム 障がい者スポーツと健康観

シッティングバレーボールや車いすテニスを知っていますか。障がい者スポーツとして普及している競技で、パラリンピックの公式競技にもなっています。障がい者にとってスポーツをすることは決して困難な目標ではありません。さまざまな競技が工夫され、多くの人々が参加しています。身体的な状況に応じ、目標に向かって毎日を送ることができます。これも1つの健康のすがたということが出来ます。」【現代】 p.8

「Column 障がい者スポーツと健康観

シッティングバレーボールや車いすテニスを知っていますか。障がい者スポーツとして普及している競技で、パラリンピックの公式競技にもなっています。障がい者にとってスポーツをすることは決して困難な目標ではありません。さまざまな競技が工夫され、多くの人々が参加しています。身体的な状況におうじて、すべての人が生きがいを持ち、目標に向かって毎日を送ることができます。これも健康に生きるすがたの1つといえるのではないのでしょうか。」【最新】 p.8

3-2 依存症・嗜癖に関して

飲酒や薬物の作用や危険の詳述で紙面が占められ、医療やその後の社会復帰、社会福祉への言及は殆どない。予防啓発の強調で終わると、発症に及んだ際の絶望感や受診の遅れなどを生みはしないかと危惧される。わずかに自助グループに触れているのは救いであるものの、医療の対象として受診につながる情報提供が見られないのは残念である。

「不適切な飲酒は・・・個人にとどまらず、社会全体にも大きな影響を及ぼします。」【最新】 p.29

「社会復帰のための自助グループによる活動などもおこなわれています。」【最新】 p.34

「断酒会などの自助グループも活動したりしています。」【現代】 p.27

他方、ストレスに関しては、カウンセラーや臨床心理士、医師の活用が示される。

「また、場合によっては、カウンセラーや医師などの専門家や専門機関の力を借りることによって、ストレスの原因を点検し直したり、(中略) ストレス対処について相談することも必要です。」【最新】 p.47

「場合によっては、カウンセラーや医師などの専門家に相談することも必要です。」【現代】 p.43

「もし、心身症と疑われる症状がでた場合には、自

分一人で悩まずに、心療内科や精神科の医師、臨床心理士などの専門家に積極的に相談し、心身両面からの治療を受けるようにしましょう。」【第一】 p.41

3-3 QOL・生活の質に関して

「生活の質」という訳語のためか、「生きがい」との関連で説明されており、福祉の視点での一般的な生活の側面をイメージすることが難しく、加齢や障害のために一般的な生活に欠けることを当然視することにならないか危惧される。

(健康の考え方と健康の成り立ちの項)

人口の高齢化が進む現在では、(中略) 生きがいをもって、生活の質を重視した日常生活や社会生活をおくることが大切です。【第一】 p.9

※側注あり：「生活の質 QOL (quality of life) ともいう。私たちの生きがいや満足感・幸福感などを規定している生活の中身やレベルのこと。個人個人のおかれている状況によってことなる。」

「一人ひとりが自分なりの目標をもち、生きがいや満足感をもった生活を送ることができる状態、すなわち生活の質を重視した健康観が生まれています。」【最新】 pp.8-9

※側注あり：QOL (quality of life) ともいう。人生において多くの社会的役割を実行できる能力だけではなく、自分の生活への満足感や幸福感が含まれる。

「1人ひとりがそれぞれの状況のなかで自分なりの目標をもち、生きがいや満足感といった生活の質を重視した健康観も生まれています。」【現代】 p.8

※側注あり：「QOL (quality of life) ともいう。人生において多くの社会的役割を実行できる能力だけではなく、自分の生活への満足感や幸福感が含まれる。」

健康観を扱う項だけでなく、余暇の確保の項や障害スポーツの項にも登場する。

「余暇を確保し、積極的に活用する姿勢は、生活の質はもちろん、人生の質を高めていくことにもつながるのです。」【最新】 p.105

(社会における生涯スポーツの役割を考えてみよう)

「多くの自由時間を活用して、人びとが豊かな生活の質を積極的に求めていく社会がレジャー社会と呼ばれるものです。」【最新】 p.146

※側注あり：クオリティ・オブ・ライフ (Quality of Life) の日本語訳。QOLとあらわすことも多い。【最新】 p.9 側注①参照

3-4 他者の尊重

(自己実現の道すじと達成)

自分自身の自己実現の欲求を尊重することと同じように、他者の価値観の尊重に配慮しつつ行動することが、真の自己実現につながります。【現代】 p.47

3-5 ボランティア

ここでのボランティアとは、【第一】の側注が説明するように、無償・自主性に重点があるようである。

「国際大会や地域のスポーツ大会などでボランティアとして運営の手伝いにかかわる人も多くなってきました。」【第一】p.157

※側注あり：ボランティア 報酬を目的としないで、個人の労力や技術・時間を提供しておこなう、自由な意志にもとづく主体的な活動のこと

(防災・防犯をめざした社会)

「安全・安心な社会づくりには、私たち住民の参加が不可欠です。警察署や消防署の活動に加え、住民どうしの協力とボランティアによる支援が、防災・防犯の大きな力となります。」【現代】p.55

3-6 自然流産および障害児の誕生

各書とも、「結婚生活と健康」、「妊娠・出産と健康」、「新しい生命の誕生」などの項を設けて、妊娠や出産の過程を詳述している。しかしながら、受精し妊娠して以降は、結局、出産する記述になっていて、遺伝その他の理由による、いわば生理的な自然流産や、障害を持って誕生してくる生命についての記述は皆無である。

母胎と胎児を保護するための配慮や健診に関する記述があるのと同様、積極的な理由で流産せざるを得ない生命や、何らかの障害となる要因を持って生まれてくる生命についての記述があって然るべきではないだろうか。生徒の一定比率は、いわゆる障害児の親となるに相違ないのである。

【第一】が、「自然死産率」という用語をあげて、「若年齢や高年齢においては、自然死産率が高くなります。」【第一】p.67)と記述しているが、あくまで母体側に着目しているにすぎず、ニアミスと言わなければならない。

3-7 高齢者に関する諸問題

障害は機能の回復をめざすものという、古典的なりハビリテーション観とみられる記述があるほか、医療や保健との連携で「福祉」に触れられるものの、それは介護や物的環境の整備の活動を指しているかのようである。その中において、【現代】が差別や偏見に触れて「心のバリアフリー」を説いているのは好感がもてる。

(8. 豊かな高齢社会の実現のために 1 高齢化の現状 2 高齢社会における取り組み)

「高年齢は人生の完成期にあたり、余生を楽しみ、精神的にも豊かな収穫をえる時期です。」

「高齢化の進行にともなって、高齢者福祉の需要が増えてきたため、さまざまな法的整備もおこなわれています。たとえば、高齢者の医療の確保に関する法律では、(中略)。さらに、介護を国民の皆がささ

あうしくみとして介護保険制度があり、(中略)高齢者の支援対策の推進がなされています。一方、心疾患・脳血管疾患などの後遺症として寝たきりにならないための、リハビリテーションの需要も増えています。」

「高齢者も障害のある人も、家庭や地域において、普通の生活をおくることができるようにすべきであるというノーマライゼーションの理念をふまえて、バリアフリーやユニバーサルデザインの活用をふくめた、環境の整備が必要です。」【第一】pp.75

※側注あり：「リハビリテーション」病気によって、または事故などの後遺症で何らかの障害をもった人が、身体的・精神的・社会的に能力を最大限に獲得したり、または回復できるようにすること。

「ノーマライゼーション」日常のさまざまな場面で、障害のある人が、可能なかぎり障害のない人と同じく、ともに生活をおくることができるようにすること。このためには、バリアフリーやユニバーサルデザインなどを利用した、環境整備が大切である。

「バリアフリー」障害者や高齢者が生活するうえで、の障壁を取りのぞき、すべての人に、やさしい生活、環境空間をつくらうとする考え方。

「ユニバーサルデザイン」まちづくりや商品のデザインについて、だれもが利用しやすいデザインを取り入れておこうとする考え方。

(6. 中高年期と健康 2 中高年期の健康を支える取り組みが進んでいる 1 高齢者の暮らしを支える)

「健康診断や健康相談といった保健と、予防や救急といった医療と、訪問介護や施設での介護といった福祉の連携が進められています。」

「2 すべての人が暮らしやすい社会づくり 障がいをもった場合、機能の回復や社会への復帰をめざして、できるだけ早い時期からリハビリテーションを開始することが重要です。また、障がいの有無や高齢であるかどうかにかかわらず、すべての人が平等に生活できるように、環境が整備されていくことが大切です。こんにちでは、このようなノーマライゼーションの考え方のもと、バリアフリーやユニバーサルデザインなどに配慮したものをつくったり、施設を整備するなどの社会的な取り組みが進められています。」【最新】p.77

(6. 加齢と健康 2 中高年期を健やかに過ごすために)「(2) はりのある生活 生きていく上で、老いは避けることができません。老いは老いとして受け入れるとともに、これからの人生に向けて積極的に生きることが大切です。自分の能力や特技を生かして、地域で子どもや若者たちに技術や文化を伝えたり、海外でのシニアボランティアに参加したりするといったことは、自らの存在感を高め、心に「はり」が生まれます。また、家族や親しい友人と楽しい時間を過ごし

たり、音楽やスポーツなどの趣味を楽しんだりすることによって生きがいをもつことも大切です。

高齢者のこうした生活を理解し、共感的に接したり、積極的に支援したりするなど、高校生をはじめ若い世代の活躍が期待されています。」【現代】 p.75

(7. 高齢者のための社会的取り組み 1 高齢者の健康課題とその支援 (2) 保健・医療・福祉の連携

「これまで、高齢者の健康問題に対して、病気の予防や健康増進は保健が、病気の治療は医療が、自立の支援や介護は福祉が個別に担い、それぞれのサービスを提供してきました。そのため、同様のサービスが重複したり必要なサービスが受けられなかったりして、生活の質が低下するなどの不都合もみられました。そういった問題に対応するには、保健・医療・福祉の連携が必要不可欠です。そこで、近年ではそれぞれの健康課題に即した総合的な支援が受けられるように制度が整備されています。」【現代】 pp.76-77

※側注あり：「わが国では、高齢者の自立を支援するという考えの介護保険法により、介護保険制度として介護や支援が必要と認定された人に対して、訪問介護やデイサービス、ショートステイなどのサービスが提供されている。」【現代】 p.77

(2 すべての人が健康で安全に暮らすための取り組み 「(1) 生活の質の維持「高齢者や寝たきりや認知症になる原因には、脳卒中などがあります。それらを予防する事に加えて、もし介護を必要とする状態になった場合には、機能の回復や社会復帰をめざし、なるべく早い時期からリハビリテーションを活用し、可能なかぎりの自立と社会参加によって生活の質を維持していくことが必要です。」【現代】 p.77

「(2) すべての人が暮らしやすい社会づくり 高齢者にかぎらず、事故や病気で障がいをもつなど、介護が必要になることもあります。そのような状況であっても、そのために社会的な不利益を被ることがなく、主体的に社会参加し、いきいきと暮らすことができ、人生を楽しめるような社会でなければなりません。こんにちでは、ノーマライゼーションの考え方のもと、バリアフリーやユニバーサルデザインなどに配慮したものをつくったり、施設を整備したりするなどの社会的な取り組みが進められています。また、差別や偏見のない「心のバリアフリー社会」の実現も必要です。

このような社会は、すべての人にとって健康で安全に暮らせる快適な社会でもあり、障がいをもつ人の視点を大切にしながら、協力して行動していくことによって実現できることも忘れてはならないでしょう。」【現代】 p.77

3・8 労働者災害補償保険

【最新】にはこの記述はなく、【第一】では 3. 労働

働による傷害 の項中、「休業4日以上死傷」の注において、被災者数の集計基準の説明に「労働者災害補償保険」の語が登場するのみである。【第一】 p.110 これらに比して、【現代】が、8. 労働災害と健康 2 安全管理と健康管理のしくみ (2) 健康管理 の項で、「なお、労働災害が起きたときに備えて、労災保険制度が設けられており、」【現代】 p.107)と言及するのみならず、側注において、「正式には労働者災害補償保険という。働く人やその家族を保護するために設けられた制度で、対象は正社員だけでなく、パートやアルバイトも含まれる。」と、高校生にも一般的になっているアルバイトへの適用に触れているのは、卓見であり有益である。

3・9 生涯スポーツに関する福祉的視点

【最新】と【現代】は、先述のように執筆者が重複することから類似の記述であるが、高齢者や障害者のダイバシティに着目した「生涯スポーツ」を意識した記述である。また、保健編ではなく体育編ではあるが、【第一】が「生涯スポーツと障害者スポーツ」という見出しを掲げているのは、興味深い。記述は量的に「障害者スポーツ」に割かれているものの、それが「生涯スポーツ」観の到達点を示しているようにも思われる。とはいうものの、インクルージョンの視点からすれば、心許ないと言わざるを得まい。

(1. 生涯スポーツの見方・考え方 1 社会におけるスポーツの役割を考えてみよう

「多くの自由時間を活用して、人びとが豊かな生活の質を積極的に求めていく社会がレジャー社会と呼ばれるものです。

レジャー社会では、若者だけでなく、これまであまりスポーツに縁がないと思われていた障がい者や中・高齢者などにとっても、スポーツの役割が生活の質を高めるうえでたいへん重要になってきます。つまり、それぞれの年齢層で、体力や技能などの身体的側面、気力や情緒などの精神的側面、地域や所属する集団・組織などの社会的側面といったさまざまな状態が変化することから、このような変化の特徴においてスポーツの楽しみ方も変化していくという生涯スポーツの見方や考え方が生まれてくるのです。」【最新】 pp.146-147

「中高年期になると、体力や技能は着実に衰えていくことから健康がより強く求められるようになります。また、中・高齢者は、それまでに蓄積された豊かな知性や精神的ゆとり、あるいは人間関係の広がりや深まりなどを生かし、さまざまなスポーツ活動を展開する可能性もっています。」【最新】 p.147

「多くの自由時間を活用して、人々が豊かな生活の質を積極的に求めていく社会がレジャー社会と呼ばれるものです。

レジャー社会では、スポーツの役割が若者だけでなく、これまであまりスポーツに縁がないと思われていた障がい者や中・高齢者などにとっても、生活の質を高める上で重要になってきます。つまり、それぞれの年齢層で、体力や技能などの身体的側面、気力や情緒などの精神的側面、地域や所属する集団・組織などの社会的側面といったさまざまな状態が変化することから、このような変化の特徴に応じてスポーツの楽しみ方も変化していくという、生涯スポーツの看法や考え方が生まれてくるのです。そこでは、各ライフステージでどのようなスポーツの種目やおこない方がふさわしいのかを考えることがとても大切な課題になっています。」【現代】 pp.158-159

「中高年期になると、体力や技能は着実に衰えていくことから、健康がより強く求められるようになります。また、中・高齢者は、それまでに蓄積された豊かな知性や精神的なゆとり、あるいは人間関係の広がりや深まりなどを生かし、さまざまなスポーツ活動を展開する可能性もっています。たとえばこんにちでは、高齢者を対象としたゲートボールやグラウンド・ゴルフなどに代表されるニュースポーツの開発や普及が奨励されています。また、ラグビーやサッカーなど、これまで激しい運動と考えられてきたスポーツが中高年期や女性の間にも広がっています。」【現代】 p.159

（第6章 豊かなスポーツライフのために 第1節 生活のなかのスポーツ 1. ライフステージに応じたスポーツの楽しみ方 1生涯にわたるスポーツ

「高年期 老化による心身の機能の低下や社会的地位の変化、死への不安などが高年期の性格変化をもたらします。自分の体力や健康状態にあった運動やスポーツを継続して楽しむことが大切です。スポーツによって、地域の人たちとの交流や人間関係を深めることもできます。このことは、個人の孤立をふせぐだけでなく、生きがい感の獲得や地域社会の活性化にもつながります。」【第一】 p.157

（2いろいろなスポーツの楽しみ方

「国際大会や地域のスポーツ大会などでボランティアとして運営の手伝いにかかわる人も多くなってきました。」【第一】 p.157

※側注あり:「ボランティア 報酬を目的としないで、個人の労力や技術・時間を提供しておこなう、自由な意志にもとづく主体的な活動のこと」

「3. スポーツライフの実践 1生涯スポーツと障害者スポーツ

人びとのライフスタイルの変化や、高齢化による健康・福祉への関心の高まりなどによって、一人ひとりの自己実現や生きがい感と深く結びついた、生涯スポーツの役割が大きくなっています。

さらに近年、障害のある人たちのスポーツへの参

加が多くなっています。2012年にロンドンで開催されたパラリンピックでは、164の国と地域から約4,300人の選手が参加しました。そして、一人ひとりの可能性に挑戦する姿に、多くの人々が感動をおぼえました。

障害者スポーツは、はじめたころは医学的なりハビリテーションや残存機能の回復訓練としてとらえられていました。しかし、社会の意識変化や、バリアフリーやユニバーサルデザインの考え方の高まりとともに、人間の幸福追求の権利として、障害者の自己実現や生きがい感の獲得に大きな役割をはたしています。

多くのスポーツでは、参加者が、それぞれの条件やルールに適合することが求められます。一方、障害者スポーツでは、ルールへの適合を求められるとともに、障害の程度や種類に応じて、条件やルールを創造することも求められます。

現在、障害者スポーツでは、障害の程度によるクラス分けの平等性、経済格差による勝敗の優劣など、新たな課題もでてきています。」【第一】 pp.160-161

4. 結語

検定教科書3種（2社が3種を刊行するにすぎない事実も問題にすべきであろうが、本稿の目的を逸脱する）の記述を検討し9項目について指摘、考察した。2種は執筆者の重複からか酷似した記述が見られた反面、当然ながら相違が存在する。他の1種の独自性もさることながら、他の2種と共通する記述が見られた。この分野あるいは執筆者の共通認識なのかもしれないし、検定意見の存在を暗示しているのかもしれない。

いずれにしても、現在、全国の生徒（および担当教員）が手にしているのは、この3種のいずれかの教科書であり、授業ではこれらの記述に直面する。そして、「公民」「家庭」（生徒によっては「福祉」も）の教科書や授業内容との連携的理解や発展が期待される場所である。とはいうものの、現状は、福祉の到達点との矛盾とまでは言わずとも、相克が含まれていることを指摘しなければならない。

授業とは、教科書「を」教えるものではなく、教科書「で」教えるものである。取りあえずは、授業者教員の力量に期待するところ大である。